



ワンストップ解決を目指す 「あんしんサポートセンター」

平成27年度全国社会福祉協議会会長表彰を受賞

西和賀町社会福祉協議会
高橋 純一 事務局長

支援を必要とする人がもれなく
カバーされるような社協事業を
展開してきました。現在の状況
を。

西和賀町は過疎と少子高齢化（※
現在の高齢化率は約44%、世帯数は
約2,370世帯、うち一人暮らし
は336人）の中で、広範な地域に

住民が点在しており、限界集落化す
る地区もあります。こうした中で高
齢者や障がい者に必要な支援システ
ムを模索し、支えあいの基盤づくり
を進めてきました。

基盤づくりの取組みは、厚生労働
省モデル事業「安心生活創造事業」
（平成21年～25年）と、県社協の「市
町村モデル事業」（※新たな地域支
え合いシステム創生事業）とを連動
させ、地区ごとに直面する生活課題
を把握しながら、さまざまな事業を
創出しました。

一例としては、高齢者らの不便を
サポートする「アクション大舞広」、
高齢者の買い物支援「まごころ宅急
便」、見守りシステム「絆-ONE」
等があげられるほか、以前からの地
域型サロン「ウナダナサロン」、雪
かき支援「スノーバスターズ」など
の事業は定着しています。

昨年4月に高齢者等が直面する
生活全般の課題を支えるために
「あんしんサポートセンター」を
立ち上げました。対応や課題を
お聞かせください。

まず、住まい、医療、予防、生活
支援を一体的に提供する仕組み、イ
コール「地域包括ケアシステム」を
構築するには、これまでのような分
野別の相談体制や事業ごとの支援の
あり方では、広範かつ複雑多様化す
る生活課題への対応は、大変に難し
いものがありました。

ひと言で連携とはいったものの、各
機関ごとの対応では、ともすれば「た

らい回し」的な対応に終始するケー
スも見られ、「ワンストップ解決」に
はなかなか至らない現実がありまし
た。生活困窮者自立支援法の施行に
伴って、「自立相談支援事業」に取
組んでいますが、「誰もが住み慣れ
た地域で安心して暮らし続けられる」
ようサポートするには、総合相談・
生活支援全般に、横断的かつフット
ワーク良く取組む仕組みが必要でし
た。

そのため小さなことにもきちんと
対応し、社協だからこそできる身の
丈にあった運営を第一に、「あんし
んサポートセンター」（※高橋事務
局長がセンター長兼務）を社協内に
立ち上げました。

立ち上げから約1年近くが経過し
ますが、生活困窮者自立相談支援事
業との関わりが深いケースも見受け
られています。極めて些細な日常生
活上の不安や課題が、やがて大きな
問題に発展するだろうと思われる事
案も少なくありません。

特にも従前からあった「困った
なあ」「どうしたらいいのかわか
らな」な事案を、可能な限り細かく分析し、
分解し、掘り下げ、個別的に突き詰
めていくことで、ささやかな解決の
糸口のようなものが見えてきます。
「諦め」を「希望」に変える対応事例
も見受けられています。

目的に沿った成果はあったと手ご
たえを感じているところであり、可
能な限りワンストップでの解決を目
指して、引き続き取り組んでいきたい
と思っています。

の振興などを通じて、住民相互の助
け合いの機運を醸成し、災害にも備
えた安全安心なコミュニティの形成
を促進すること」、「一、社会福祉事
業者の経営基盤の強化や、福祉・介
護人材の養成・確保を進め、福祉サ
ービスの質の向上を図ること」、「一、
福祉分野のみならず、医療・保健・
教育・労働など、多種多様な分野の
組織、機関等とのネットワークを強
化し、より多様なサービスの提供や
活動の展開ができるよう努めるこ
と」を採択し、閉会しました。

全国社会福祉大会の開催

平成27年度全国社会福祉大会が11
月20日に日比谷公会堂（東京都）で
開催され、岩手県から36名、3団体
が表彰されました。「厚生労働大臣
表彰13名1団体、全国社会福祉協
会会長表彰21名1団体、中央共同募
金会会長表彰2名1団体」
式典後、「鶴と亀の生き方」と題し、
作家・福聚寺住職 玄侑宗久氏の記
念講演が行われました。

